



SCB

金融調査情報

No.2024-17

(2025.2.18)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 間下 聡

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

最近の信用金庫と国内銀行の地区別預貸金動向

視 点

我が国経済は新型コロナウイルス感染症の影響下から脱し、日常を取り戻してきた。その間、いわゆるゼロゼロ融資とその返済開始、日本銀行のマイナス金利解除と追加利上げを経ながら、信用金庫の地区別預貸金前年同月比増減率は推移してきた。国内銀行とも比較しながら、最近の信用金庫の地区別預貸金動向を確認する。

要 旨

- 全国信用金庫の貸出金（末残）の前年同月比増減率を確認すると、プラス幅は 2024 年 4 月末を底に拡大傾向にある。一方、預金増減率のプラス幅も、2024 年 5 月末を底に、足元（2024 年 12 月末）まで緩やかな拡大傾向にある。貸出金増減率（①）から預金増減率（②）を引いた差（①－②）は、2024 年 5 月末にプラス幅が急拡大した後、横ばい傾向となっている。
- 信用金庫の地区別に預貸金増減率の推移を追うと、貸出金は全 11 地区において足元でプラス（増加）となった。預金は、3 地区（東京、中国、南九州）で足元の増減率がマイナス（減少）となっている。足元の両者の差（①－②）は、全 11 地区でプラスとなっており、1 年前に比べて預貸率は上昇している。ここ半年程度の貸出金増減率（①）、預金増減率（②）、両者の差（①－②）の傾向をみると、①貸出金の増減率は 8 地区で上昇（プラス幅拡大ないしマイナス幅縮小）傾向、東北で低下傾向、残る 2 地区で横ばい傾向となっている。一方、②預金の増減率は 7 地区で上昇傾向、4 地区で横ばい傾向となった。両者の差（①－②）は、2 地区でプラス幅拡大傾向、2 地区で同横ばい傾向、残る 7 地区で同縮小傾向である。
- 全国信用金庫と国内銀行（以下、銀行勘定のみ。）の貸出金（末残）の前年同月比増減率を比較すると、両者とも貸出金増減率はプラスで推移してきたが、プラス幅は国内銀行の方が大きい。信用金庫、国内銀行ともプラス幅は足元拡大傾向にある。(A)信用金庫から(B)国内銀行を引いた差((A)－(B))のマイナス幅は、2024 年 4 月末のピークから縮小傾向にあったが、足元では拡大している。
- 信用金庫の地区別に、貸出金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫、国内銀行のいずれも足元の増減率は全 11 地区でプラスとなっている。足元の(A)信用金庫と(B)国内銀行の貸出金増減率の差((A)－(B))は、関東と北陸でプラス、残る 9 地区ではマイナスとなった。
- 全国信用金庫と国内銀行の預金（末残）の前年同月比増減率を比較すると、信用金庫は、2024 年 5 月末に一時的なマイナスとなったものの、その後はプラス幅が緩やかに拡大する傾向がみられる。一方、国内銀行のプラス幅は、幅こそ大きいものの、2023 年 8 月末をピークに縮小傾向をたどっている。この結果、(C)信用金庫から(D)国内銀行を引いた差((C)－(D))のマイナス幅は縮小傾向にある。
- 信用金庫の地区別に足元の預金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫は前述のとおり、3 地区で足元マイナスとなっている。一方、国内銀行は全 11 地区でプラスであるが、東海と南九州では 2024 年 10 月末にほぼゼロとなり、東北は同年 9 月末に一時マイナスに転じている。

キーワード

信用金庫 国内銀行 地区別 貸出金増減率 預金増減率 預貸金差 預貸率 業態間差

目次

1. 信用金庫の地区別預貸金増減率の推移
2. 信用金庫の地区別貸出金増減率の国内銀行との比較
3. 信用金庫の地区別預金増減率の国内銀行との比較

おわりに

1. 信用金庫の地区別預貸金増減率の推移

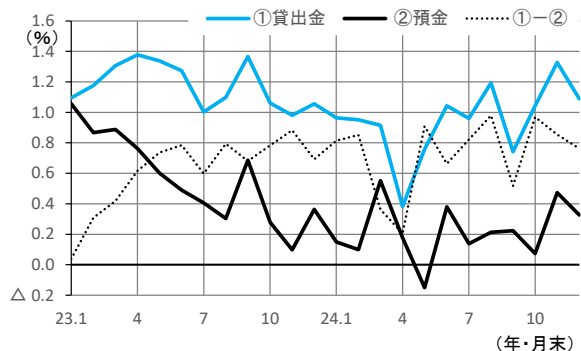
(1) 全国

まず、全国信用金庫の貸出金（末残）の前年同月比増減率を確認すると、プラス幅は2024年4月末を底に拡大傾向にある（図表1参照）。一方、預金増減率のプラス幅も、2024年5月末の一時的なマイナスを底に、足元（2024年12月末）まで緩やかな拡大傾向にある。貸出金増減率（①）から預金増減率（②）を引いた差（①－②）は、2024年5月末にプラス幅が急拡大した後、横ばい傾向となっている。

(2) 地区別の動き

信用金庫の地区別¹に預貸金増減率の推移を追うと、貸出金は全11地区において足元でプラス（増加）となった（図表2参照）。預金は、3地区（東京、中国、南九州）で足元の増減率がマイナス（減少）となっている。足元の両者の差（①－②）は、全11地区でプラスとなっており、1年前に比べて預貸率は上昇している。

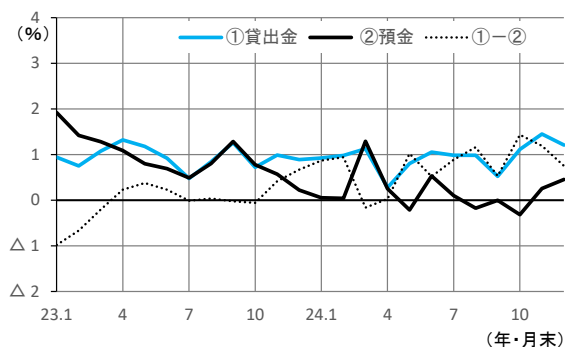
（図表1）全国信用金庫の預貸金（末残）前年同月比増減率および両者の差の推移



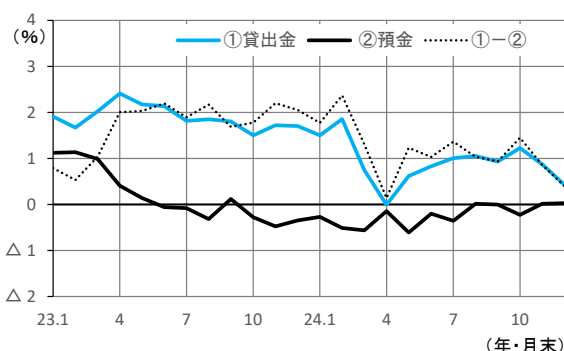
（備考）図表2、3、6、9とも信金中金 地域・中小企業研究所作成

（図表2）信用金庫の地区別預貸金（末残）前年同月比増減率および両者の差の推移

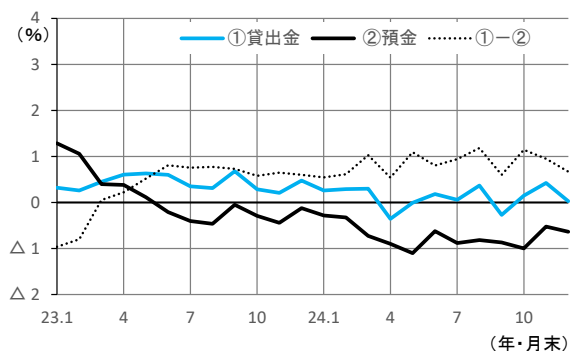
北海道



東北

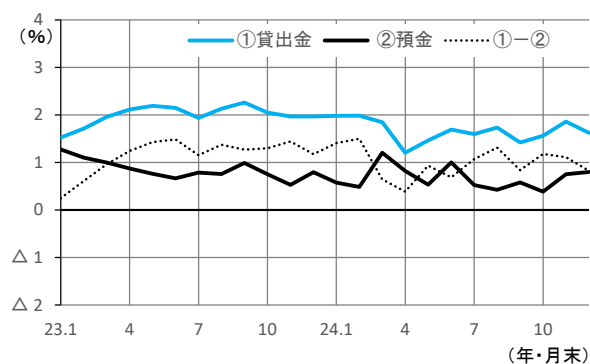


東京

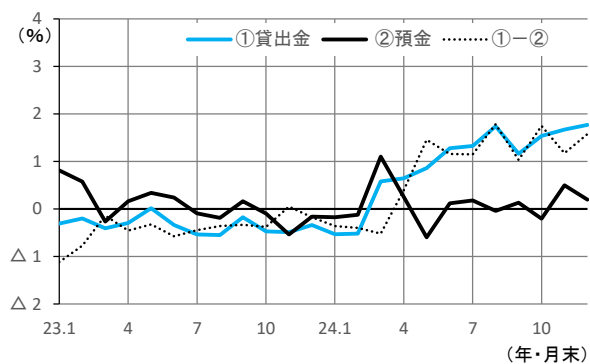


¹ 信用金庫の地区区分のうち関東は、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨、長野からなる。東海は、静岡、岐阜、愛知、三重からなる。九州北部は福岡、佐賀、長崎、南九州は熊本、大分、宮崎、鹿児島からなる。

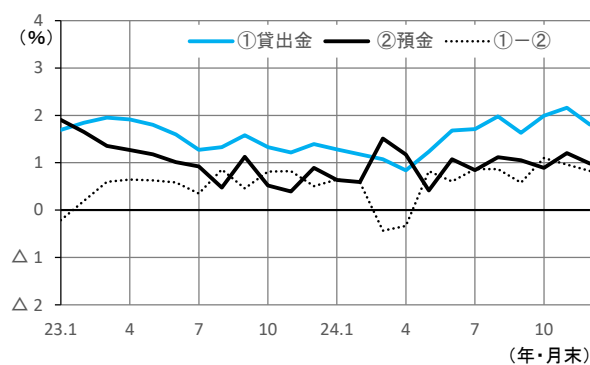
(図表2) (続き)
関東



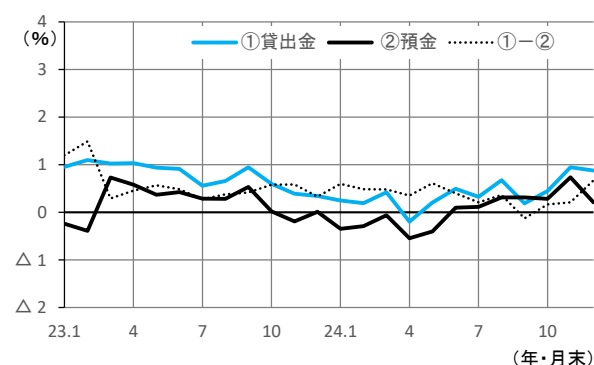
北陸



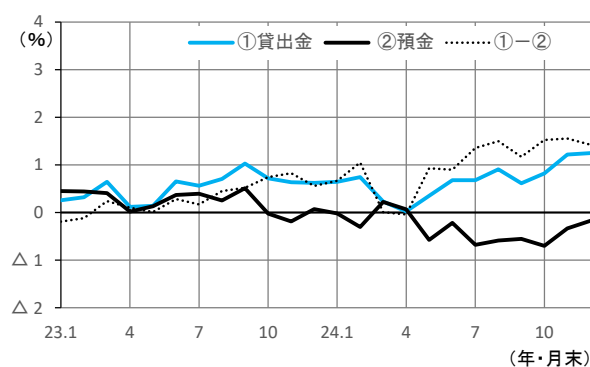
東海



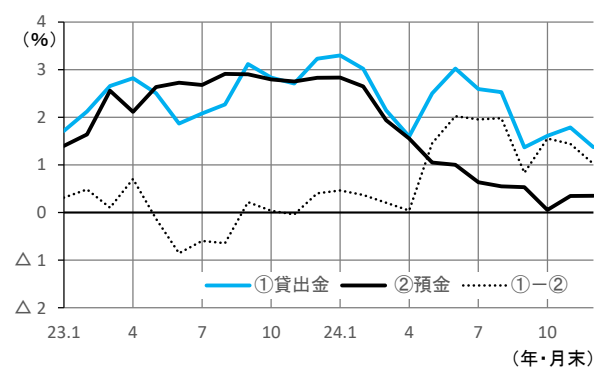
近畿



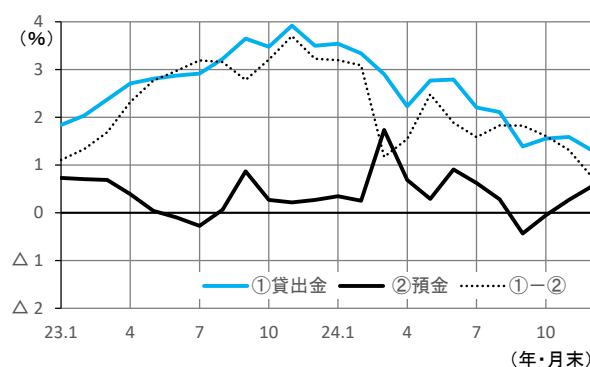
中国



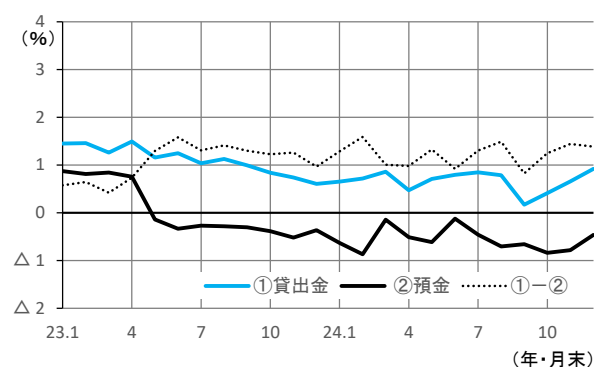
四国



九州北部



南九州



ここ半年程度の貸出金増減率（①）、預金増減率（②）、両者の差（①－②）の傾向を**図表 3**に整理した。①貸出金の増減率は8地区で上昇（プラス幅拡大ないしマイナス幅縮小）傾向、東北で低下傾向、残る2地区で横ばい傾向となっている。一方、②預金の増減率は7地区で上昇傾向、4地区で横ばい傾向となった。両者の差（①－②）は、2地区でプラス幅拡大傾向、2地区で同横ばい傾向、残る7地区で同縮小傾向である。

東北の貸出金を除くと貸出金、預金の増減率に低下傾向はみられない。

（図表 3）信用金庫地区別預貸金（末残）前年同月比増減率および両者の差の傾向

	①貸出金	②預金	①－②
北海道	△	△	▼
東北	▼	=	▼
東京	△	△	▼
関東	△	△	▼
北陸	△	△	=
東海	△	=	▼
近畿	△	=	△
中国	△	△	=
四国	=	=	▼
九州北部	=	△	▼
南九州	△	△	△

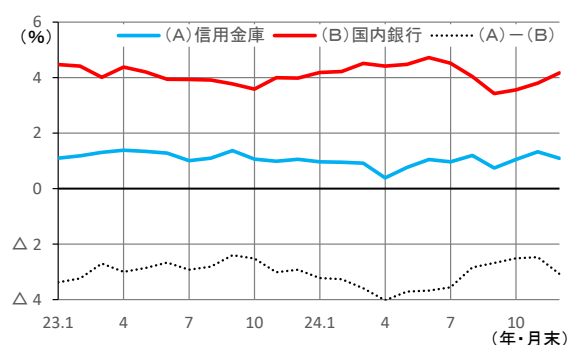
（備考）図表 6、9とも△は上昇（プラス幅拡大ないしマイナス幅縮小）傾向、▼は低下（プラス幅縮小ないしマイナス幅拡大）傾向、＝は横ばい

2. 信用金庫の地区別貸出金増減率の国内銀行との比較

（1）全国

まず、**図表 4**で全国信用金庫と国内銀行（以下、銀行勘定のみ。）の貸出金（末残）の前年同月比増減率を比較する。両者とも貸出金増減率はプラスで推移してきたが、プラス幅は国内銀行の方が大きい。信用金庫のプラス幅は2024年4月末を底に緩やかな拡大傾向にある。国内銀行も2024年9月末を底に拡大傾向にある。(A)信用金庫から(B)国内銀行を引いた差((A)－(B))のマイナス幅は、2024年4月末のピークから縮小傾向にあったが、足元では拡大している。

（図表 4）全国信用金庫および国内銀行の貸出金（末残）前年同月比増減率ならびに両者の差の推移



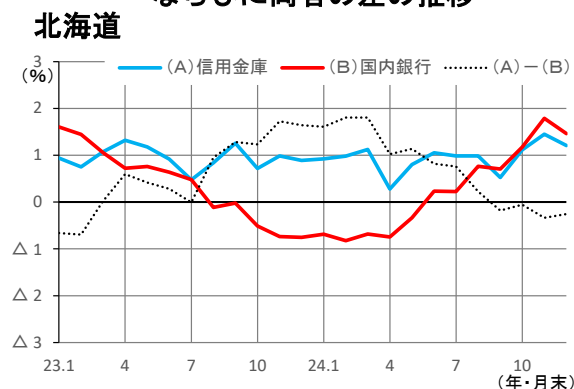
（備考）図表 5、7、8とも日本銀行資料等より作成

（2）地区別

信用金庫の地区別に、貸出金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫、国内銀行のいずれも足元の増減率は全11地区でプラスとなっている（**図表 5 参照**）。ただし、北陸では2024年中、国内銀行が前年割れとなる月もあった。

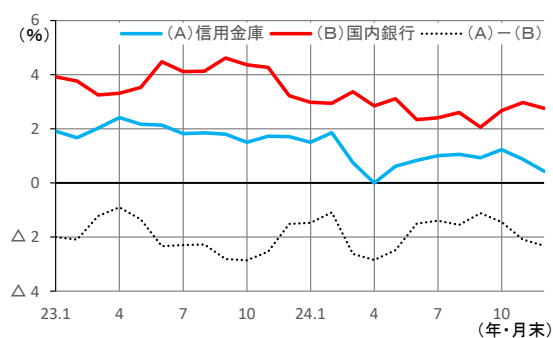
足元の(A)信用金庫と(B)国内銀行の貸出金増減率の差((A)－(B))は、関東と北陸でプラス、残る9地区ではマイナスとなった。

（図表 5）信用金庫および国内銀行の地区別貸出金（末残）前年同月比増減率ならびに両者の差の推移

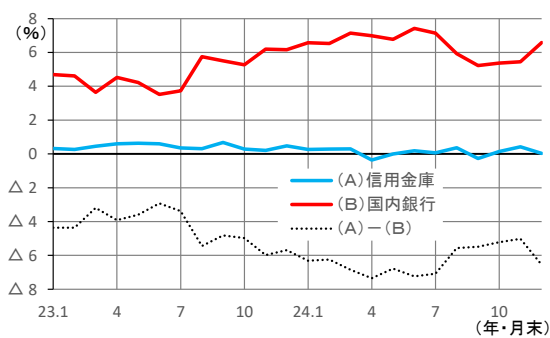


(図表5) (続き)

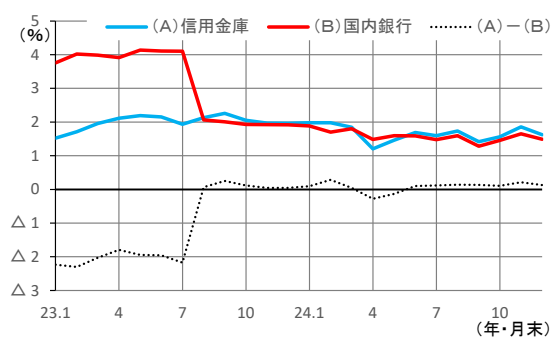
東北



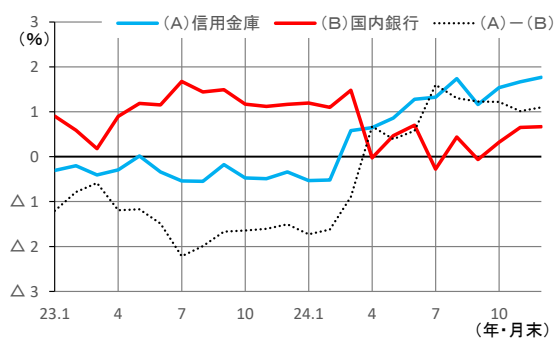
東京



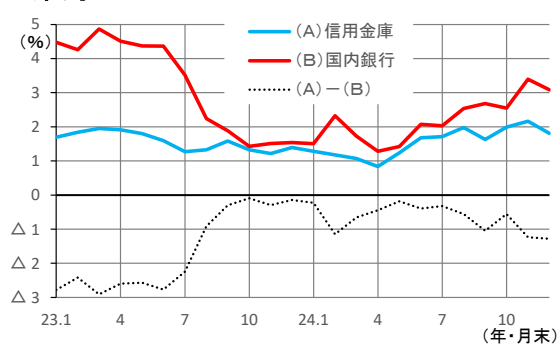
関東



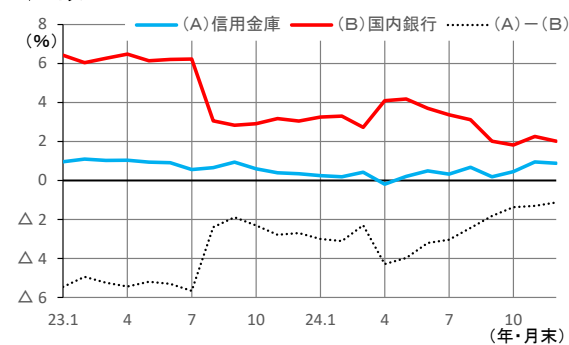
北陸



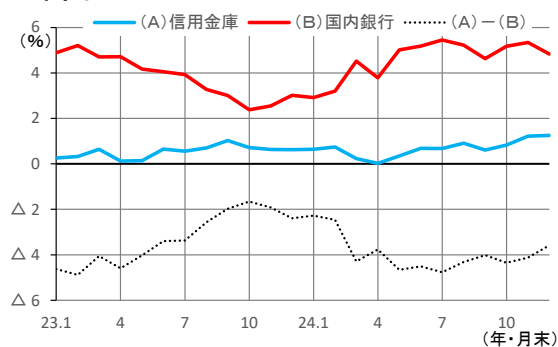
東海



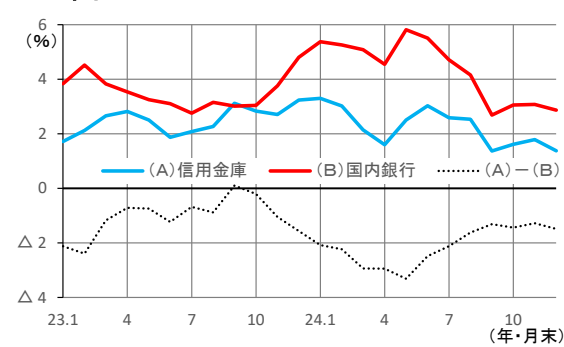
近畿



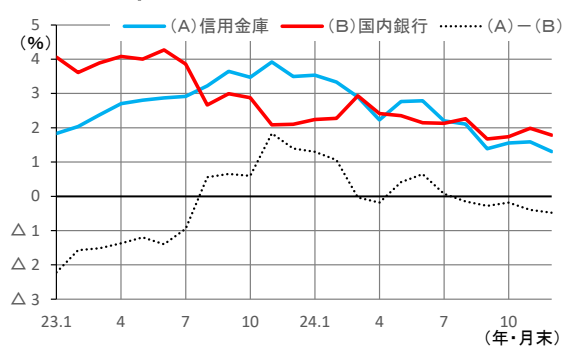
中国



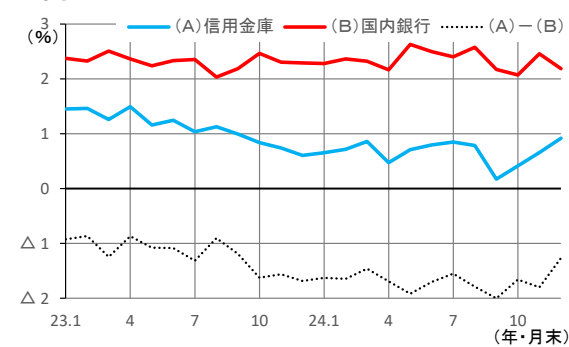
四国



九州北部



南九州



ここ半年程度の(A)信用金庫および(B)国内銀行の貸出金増減率ならびに両者の差((A)-(B))の傾向を**図表6**に整理した。前述のとおり、(A)信用金庫については8地区で上昇傾向、東北で低下傾向、残る2地区で横ばい傾向となっている。一方、(B)国内銀行は3地区で横ばい、残る8地区で上昇傾向にある。

差((A)-(B))に目を移すと、近畿、中国、南九州はマイナスとなっているが、その幅は縮小傾向にある。一方、マイナス幅拡大またはプラス幅縮小の傾向にあるのは4地区である。北海道および九州北部では、(A)信用金庫の貸出金増加率がしだいに(B)国内銀行を下回るようになり、その結果、差((A)-(B))も小幅マイナスまで低下している。残る4地区は横ばい傾向となっている。関東では、2023年8月末から(B)国内銀行の貸出金増減率が低下し、(A)信用金庫とほぼ同水準で推移するといった動きがみられる。

(図表6) 信用金庫および国内銀行地区別貸出金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の傾向

	(A) 信金	(B) 国内銀	(A) - (B)
北海道	△	△	=
東北	▼	△	▼
東京	△	△	=
関東	△	△	=
北陸	△	△	▼
東海	△	△	▼
近畿	△	=	△
中国	△	△	△
四国	=	=	=
九州北部	=	△	▼
南九州	△	=	△

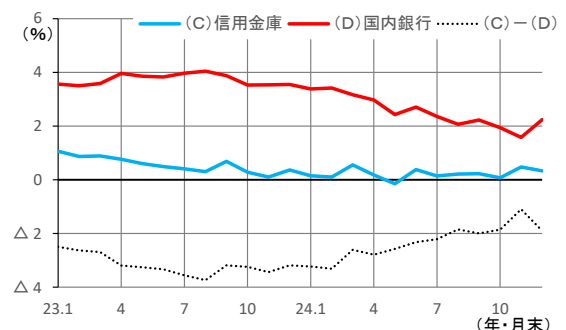
3. 信用金庫の地区別預金増減率の国内銀行との比較

(1) 全国

まず、**図表7**で全国信用金庫と国内銀行の預金(末残)の前年同月比増減率を比較する。信用金庫は、2024年5月末に一時的なマイナスとなったものの、その後はプラス幅が緩やかに拡大する傾向がみられる。一方、国内銀行のプラス幅は、幅こそ大きいものの、2023年8月末をピークに縮小傾向をたどっている。

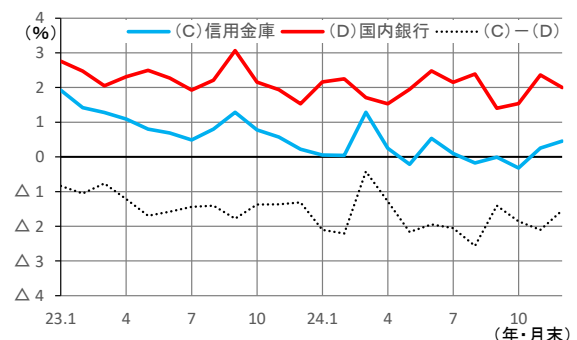
この結果、(C)信用金庫から(D)国内銀行を引いた差((C)-(D))のマイナス幅は縮小傾向にある。

(図表7) 全国信用金庫および国内銀行の預金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移



(図表8) 信用金庫および国内銀行の地区別預金(末残)前年同月比増減率ならびに両者の差の推移

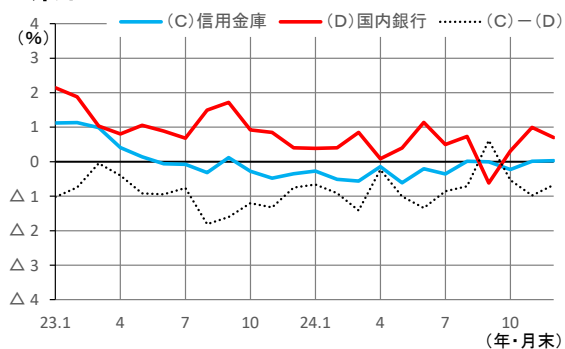
北海道



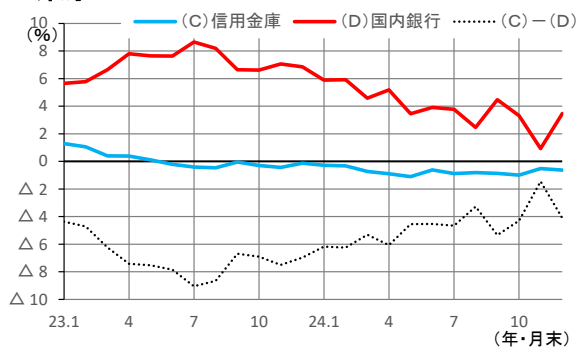
信用金庫の地区別に足元の預金増減率を国内銀行と比較すると、信用金庫については前述のとおり、3地区で足元マイナスとなっている(**図表8参照**)。一方、国内銀行は全11地区でプラスであるが、東海と南九州では2024年10月末にほぼゼロとなり、東北は同年9月末に一時マイナスに転じている。

(図表8) (続き)

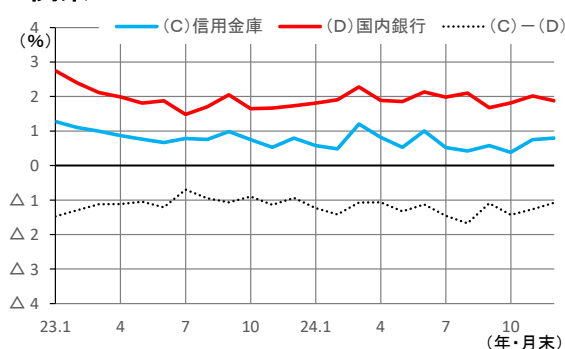
東北



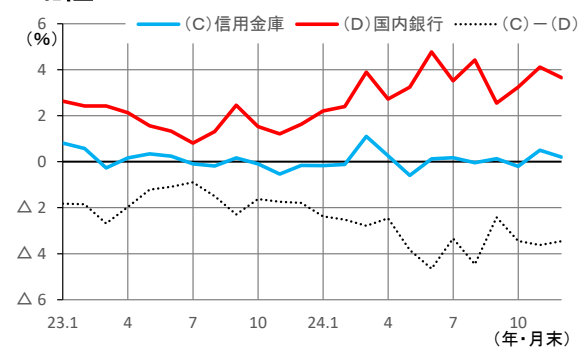
東京



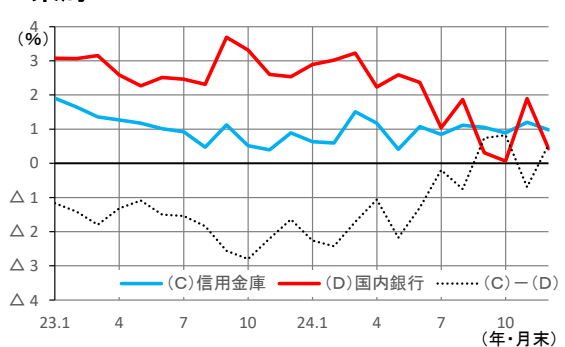
関東



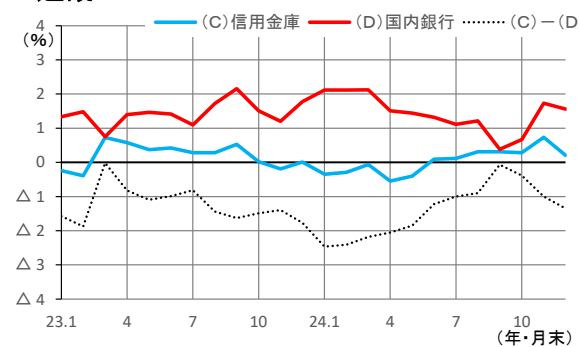
北陸



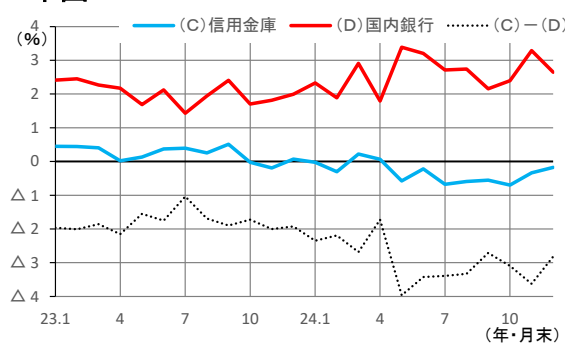
東海



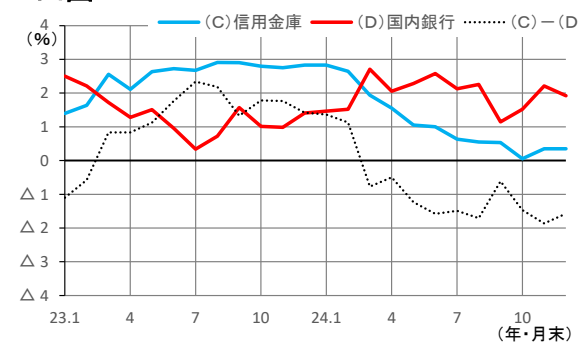
近畿



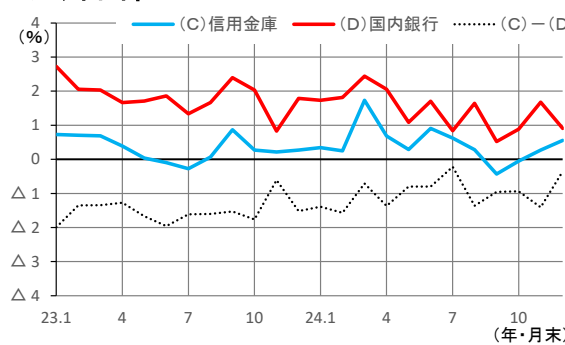
中国



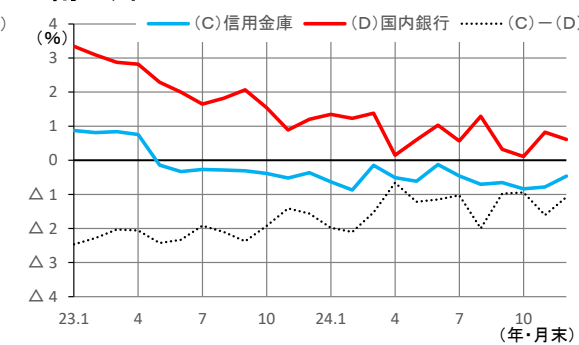
四国



九州北部



南九州



足元の(C)信用金庫と(D)国内銀行の預金増減率の差((C)-(D))は、10地区でマイナスとなる一方、東海では2か月ぶりにプラスとなった。また、2024年9月末に、東北では一時プラスとなり、近畿ではほぼゼロとなった。

足元から半年前までにみられる、直近の(C)信用金庫および(D)国内銀行の預金増減率ならびに両者の差((C)-(D))の傾向を、**図表9**に整理した。前述のとおり、(C)信用金庫については7地区で上昇傾向、4地区で横ばい傾向となっている。

一方、(D)国内銀行は、3地区で横ばい傾向、残る8地区で上昇傾向にある。両者の差((C)-(D))は2地区で上昇傾向、5地区で横ばい傾向、残る4地区で低下傾向にある。

(図表9) 信用金庫および国内銀行地区別
預金(末残)前年同月比増減率
ならびに両者の差の傾向

	(C) 信金	(D) 国内銀	(C) - (D)
北海道	△	△	=
東北	=	△	▼
東京	△	=	=
関東	△	△	△
北陸	△	△	▼
東海	=	=	=
近畿	=	△	▼
中国	△	△	=
四国	=	△	▼
九州北部	△	△	△
南九州	△	=	=

おわりに

以上、みてきたとおり、全国信用金庫の預金、貸出金は前年比プラスで推移している。プラス幅は貸出金が預金を上回っており、預貸率が緩やかに高まる状況となっているが、収益を稼ぐ元手ともいえるべき預金の伸び悩みが目立っている。

金利のある世界に戻りつつある中、預金の増加ペースの低下について、要因を探るとともに、対応について検討することが肝要と言えよう。

以 上

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。